

木質文化財研究会設立趣意書

日本には多くの文化財があります。古くは旧石器時代から連綿と続く日々の暮らしの中で育まれ、なんらかの形で今日まで遺されてきたものです。古墳、住居址、貝塚等々、およそ人類がその足跡を留めた場所である遺跡からは実にさまざまな種類の遺物が数多く出土しています。また、一方で、世界最古とも言われる法隆寺のような木造建造物、あるいは古寺に伝わる仏像、正倉院等に伝世する美術工芸品など、長年にわたりその時々の人々の手により護り伝えられてきたものもあります。

これらの文化財を、構成している材料について注目すると、「木」に由来するものが数多くあり、日本の文化を称して「木の文化」ともいわしめる所以ともなっています。中でも木材、紙、漆の3つの材料は日本の代表的な材料ということができます。主要な構成材料として「木」に由来する材料が用いられている文化財を、この研究会では「木質文化財」と呼ぶことにしています。木造建造物、木造船、木製の美術工芸品、漆製品、書籍・文書、絵画等々、その対象は多岐にわたることになります。

文化財は言わずとも大切なものであるということは共通の理解であり、それを守り伝えていかなければならないものであることはわかりきったことであるとされています。文化財はなぜ「大切なもの」なのでしょう？あるいは何をもって文化財と称しているのでしょうか？この答えは人によってあるいは時代によって異なってくることがあります。様々な分野の方々との会話を通して「文化財」についての理解を深めるとともに、木材学会としての特性を十分に発揮することでこの貴重な「文化財」の保存に寄与することが大いに期待されています。

そこで、木質文化財研究会では、次の3つの活動に取り組んでいきたいと思っています。

1) 研究 木質文化財研究会において、木質文化財に関する研究を実施します。文化財に用いられる材料としての特性、技術史、劣化診断技術、保存修復法の開発、保存環境など多くの研究課題に取り組んでいきます。木材学会内の他の研究会との共同研究をはじめ、学会内外の関連諸団体および研究協力者との共同研究なども視野に入れていきます。

2) 見学会 「文化財」についての理解を深めるため、文化財および文化財保存関連施設の見学会をおこないます。また、これらの見学会を通して、木質文化財の調査研究や保存における問題を認識し、これらの問題を木材科学としてどのように解決していくかを考える契機としたいと思います。

3) 広報 研究会や公開シンポジウムを開催し、木質文化財に関する研究成果の発表と討論をおこない、広く一般に公開していきます。

皆様のご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

平成 23 年 8 月
代表幹事 高妻洋成